

埼玉コンテナラウンドユース社会実験 の途中経過



平成28年2月17日 第4回埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会
埼玉県 都市整備部 都市計画課 1

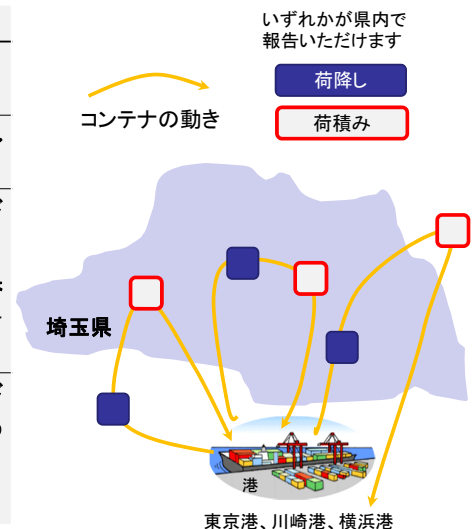
埼玉コンテナラウンドユース社会実験の途中経過

資料1-1

平成27年度 埼玉コンテナラウンドユース社会実験

期 間 H27.2.1～H28.1.31

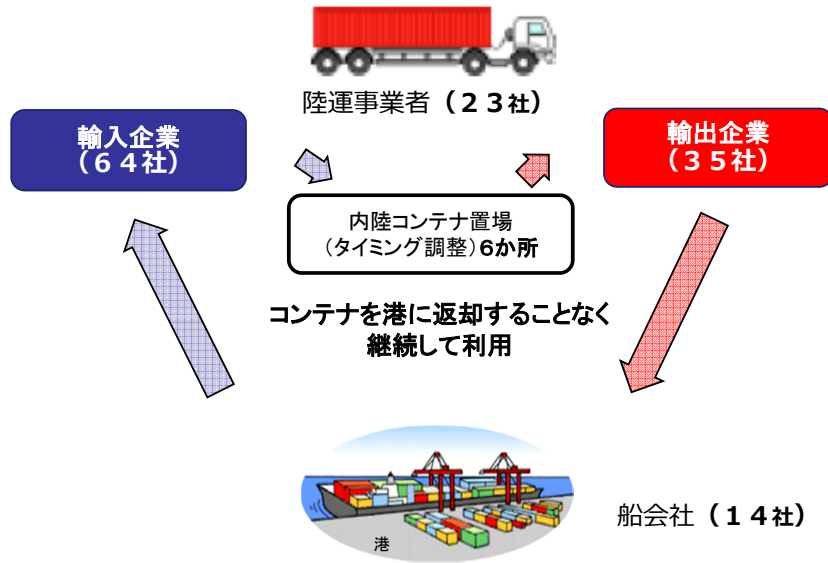
報告者	埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会構成員	船会社
	荷主企業・陸運事業者・船会社・その他CRUに貢献した者	
報告内容	輸入コンテナ目的地または輸出コンテナ出発地 が埼玉県内であるコンテナラウンドユースの実績	SCRU構成員と締結したCRU契約、デポ契約
報告書類	①コンテナラウンドユース実績表様式 荷卸、荷積場所、取扱品目概要等 を記載 ②コンテナが実入りで港から入り及び実入りで港 から出たことが分かる書類 機器受渡証(EIR)のコピー、その他同等の書類	①コンテナラウンド ユース実績表様式 ②RU契約書、連帯保 証状、デポ契約書、そ の他同等の書類
データ取得費 県⇒報告者 へ 支払	① 輸入コンテナに関するラウンドユースの報告 3千円/20または40フィート・片道 ② 輸出コンテナに関するラウンドユースの報告 3千円/20または40フィート・片道	①コンテナラウンド ユースに関する契約の 報告 6千円/件



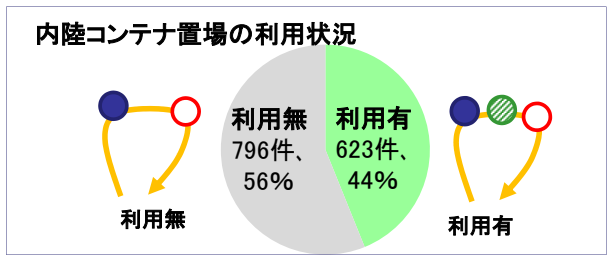
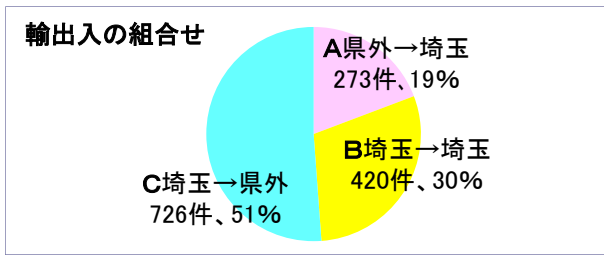
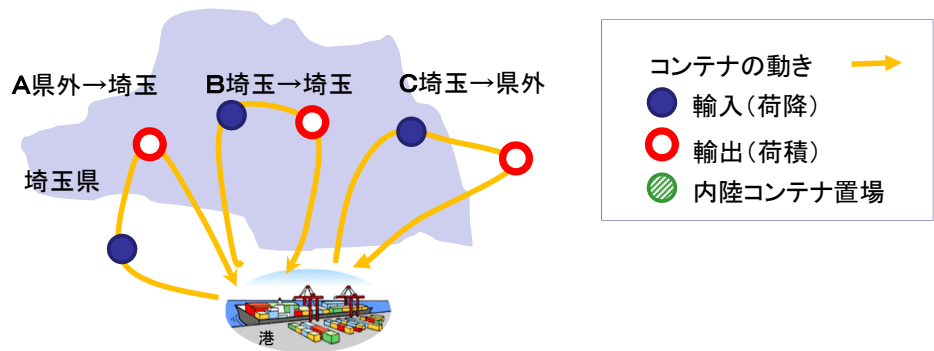


報告件数 と 参加企業数

報告件数 **1,419** 件
 (内貨転用11件含む)
 (H28.2.8現在)
 1ラウンド: 1件

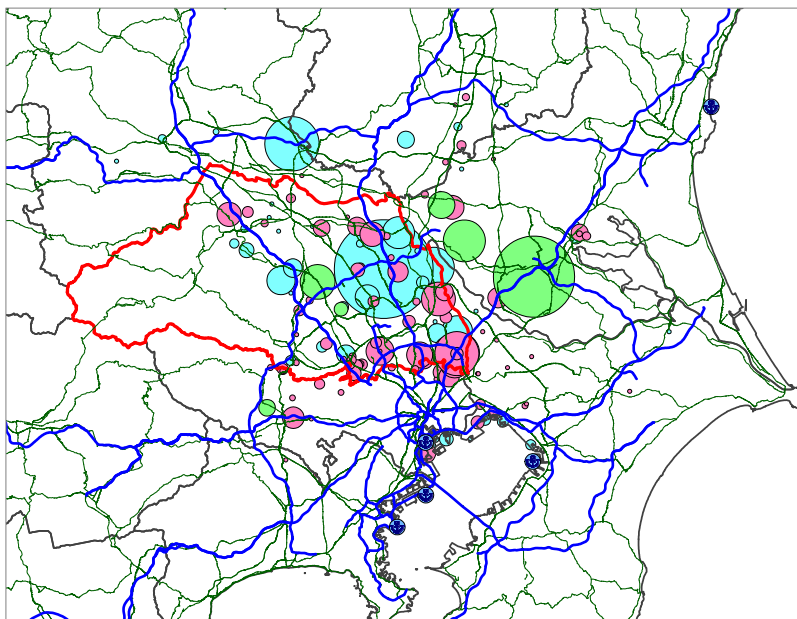


ラウンドのパターン





荷降場所、荷積場所、内陸コンテナ置場の地理的分布



- 輸入(荷降)
- 輸出(荷積)
- 内陸コンテナ置場

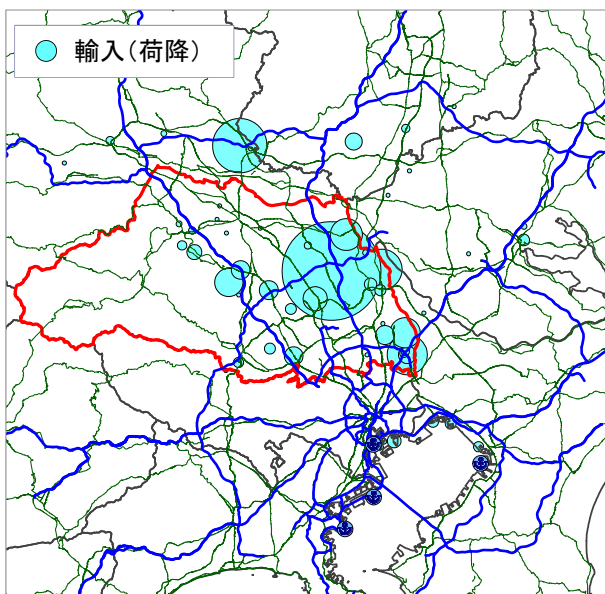
※円の大きさは、その場所が関わるラウンド件数を示す

※なお、福島県での輸入荷降、静岡県での輸出荷積が各1件ある

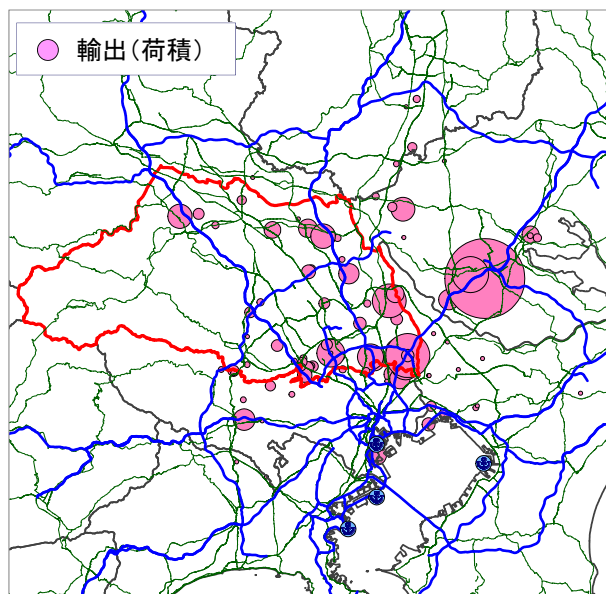
※内陸コンテナ置場は6箇所、うち埼玉県内は2箇所
埼玉県川越市、川島町
茨城県つくば市、坂東市、古河市
東京都八王子市



荷降場所、荷積場所、内陸コンテナ置場の地理的分布



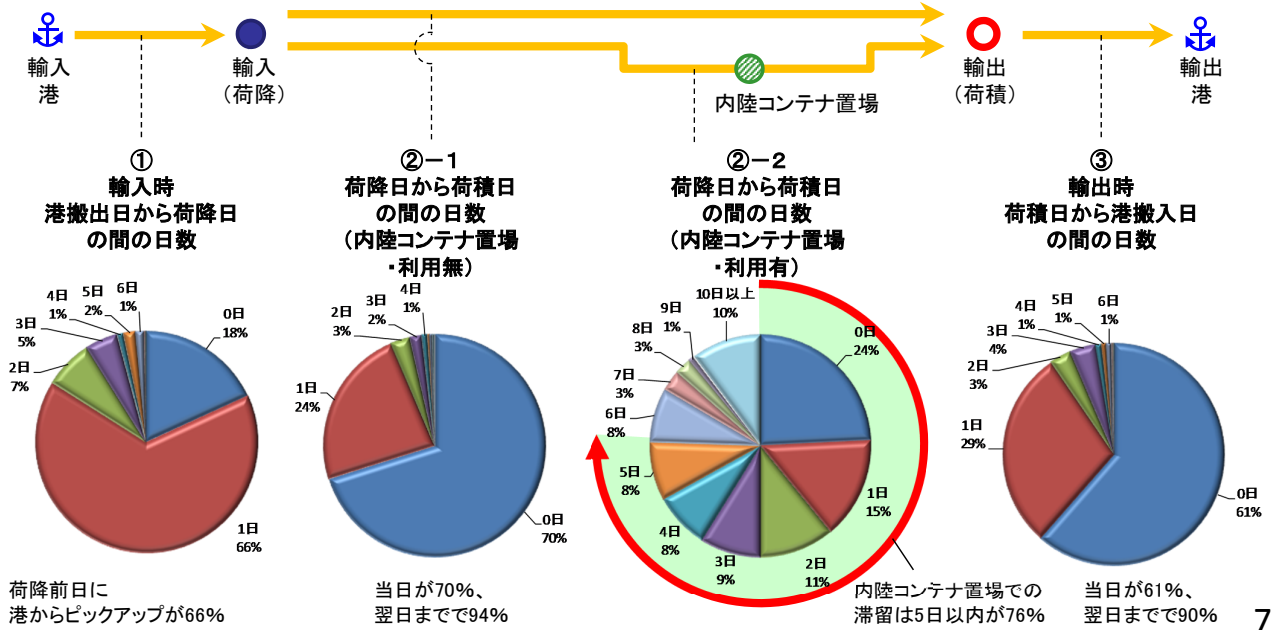
- 輸入(荷降)



- 輸出(荷積)



港搬出→荷降→荷積→港搬入の間の日数



荷の組合せ

輸入	9品目分類		金属機械工業品					軽工業品	雑工業品		特殊品	合計	
	9品目分類	81品目分類	完成自動車		自動車部品	産業機械		紙・パルプ	衣服・身廻品・はきもの		その他製造工業品		
	具体例	具体例	CKD	中古車	自動車部品	重機、農機	部品等	段ボール原紙	衣料品	雑貨	プラスチックハレット等		
林産品	製材	材木、建設資材										39	39
金属機械工業品	自動車部品	自動車部品			8							16	24
	その他輸送機械	自転車										105	105
	電気機械	ソーラーモジュール										2	2
		家電、オーディオ							7		17	90	114
		機械部品										2	2
	測量・光学・医療用機械	医療機器										1	1
化学工業品	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	医薬品										21	21
		顔料					9					9	9
		樹脂材										2	2
		柔軟剤										2	2
		消臭剤		1		90	2					3	96
		薬品			2							2	2
軽工業品	飲料	ビール、ワイン	2		2							4	4
雑工業品	衣服・身廻品・はきもの	アパレル、下着			1					1		4	6
		かばん										22	22
		タオル			2							6	8
		靴	3		2							16	21
		雑貨			44					26		140	210
	家具装備品	家具			6		373	2	4			305	690
	ゴム製品	タイヤ			1							35	36
特殊品	動植物性製造飼肥料	牧草										1	3
合計			5	1	68	92	384	2	11	27	17	812	1,419

報告件数1,419件(内貨転用11件含む)

※ CKD(Complete Knock Down)。自動車を部品に分解し現地で組み立て可能な状態にしてある車両のこと。

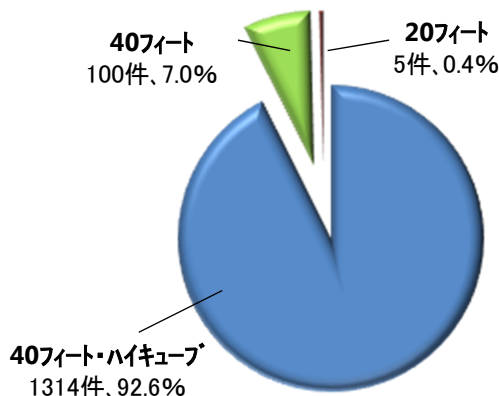


コンテナ種類・サイズ

コンテナ種類



コンテナサイズ



効果

効果

■コンテナ輸送距離 32.2%減

平均73.7km減/ラウンドユース1回
コンテナラウンドユース実施前 324,508km → 実施後 219,918km

■輸送時間 39.0%減

平均4.8時間減/ラウンドユース1回
コンテナラウンドユース実施前 17,573時間 → 実施後10,728時間

※算定条件

走行距離及び所要時間は国土交通省NITAS(全国総合交通分析システム)により計測
港の待ち時間は、東京港60分、横浜港50分、川崎港10分として試算

(*東京港と横浜港は、各県トラック協会による「コンテナターミナルにおける海上コンテナ車両待機時間調査結果」に基づき概ねの平均値として設定)
内貨転用は、輸入側のみ効果を試算

■CO₂ 110.3 トン削減(総計)

↑ スギ 7,882本/年 CO₂吸収相当

※算定資料 経済産業省及び林野庁
輸送距離の削減に加え、港の待ち時間でのアイドリング削減も燃料消費量1.25L/hで試算し加えている

■輸送コスト 20.3%減

※算定条件 S58タリフ

埼玉県都市計画課 試算
(H28.2.8時点実績に基づく試算結果)